

神大の留学生に聞く③ —モンゴル

モンゴルといいますと、大草原の壮大なパノラマや、相撲で有名な朝青龍のイメージが浮かんでくるかと思いますが。そんな大きな印象のあるモンゴルという国からこの神奈川大学に留学してきたムンフジャラガル・ザヤーさんは、経済学部経済学科に在籍する一年生の女の子です。去年の四月から日本に来ていてそうですが、予想以上に日本語が流暢で、インタビュを行う時にも様々な質問に、柔軟な笑顔で答えてくれました。

近くにありながら、意外と知らないことの多いモンゴル。ザヤーさん個人が日本という国で生活することをどう捉えているのかを伺うだけでなく、モンゴルから見た日本の文化や日本の話題についてなど、多くのことについてお話をすることができました。今回は17号館にある人文

研究所にて、お昼ごはんを食べながらのインタビューとなったためか、出てくる話題は日常のことや趣味のことなど、留学生から見た留学生活がとても身近に語られています。以下にそのインタビューの内容を記したいと思います。



写真1 ホームステイ先のザヤーさん

——ザヤーさんの学部学科を教えてくださいませんか？

経済学部経済学科です。

——基本科目はどのようなものを履修しているんですか？

芸術論（美術）とか技術論とかですね。あと文学も、とっているのですが難しくて。

——文学は慣れていないと難しいですからね。簿記とか会計とかの勉強は楽しいんですよ。

でもこれから勉強が専門的になってきたらわからなくなるかもしれません。会計と簿記はすごく好きですが、ミクロ経済学は少し苦手ですね。それと、この間簿記3級の試験を受けました。

——結果は出ました？

受かったかなとは思っていますが、結果はまだでないんです。

——学業以外には何かしているんですか？

アルバイトはしていません。したいとは思っています。今は奨学金と仕送りがあるので、が、来年からは奨学金が貰えるかわからないので。

それと、部活動でアーチェリーをしています。20号館の裏で練習することが多いんですが、すごく面白いんです。大会にも出たことがあります。新人戦とかいろいろでていますけど、なかなかうまくいなくて。2年生に1人経験者がいるだけなので、あとはみんな初心者から始まるんですけど、みんなうまいんですよ。それに男の子ばかりで、1年生で女の子は2人しかいないんですよ。来年は女の子にも入ってほしいですね。

——何故アーチェリーを始めようと思ったのですか？

なんとなくです。最初はサークルに入ろうかと思ったのですが、週に何回か飲み会があるそうで、それはちょっと大変かなと思いついて。

——土日など休日も部活をしているのですか？

土曜日は2時から中山で練習しています。アーチェリーの道具一式が重くて運ぶのが大変なんです。

——モンゴルで日本文化というところのどのようなものか思い浮かびますか？ やはり相撲とか？

そうですね、テレビでモンゴルの相撲を見たことあるかもしれないですけど、凄くつまらないんですよ（笑）。

それと比べて、日本の相撲はおもしろいですよ。短時間で勝負がきますから。モンゴルの相撲はすごく長いんですよ。1時間以上かかるんです。その上、お正月のテレビ番組はモンゴル相撲ばかりで観るものがないんです。祖父と父は大好きですが。

——日本の相撲については、例えば朝青龍の話とかも報道されるのですか？

はい。翻訳されてすべて報道されますよ。日本では批判が厳しかったりしますが、ちょっと可哀そうだと思います。

——現在どこに住まわれていますか？

ホームステイをしています。東京の杉並区です。ホームステイ先には、お姉さんが二人います。昔から何度か来ているので、家族とは仲がいいです。中学1、2年に、夏休みの1、2ヶ月間ホームステイをしてその後も日本語学校に通っていました。今回で日本は7回目です。なのでホームステイといっても気楽だし、とて

も居心地がいいです。

——ではモンゴルからお土産を持ってきたりはするのですか？

ゴビって知っていますか？ カシミアなんですけど。そういうものは人気があります。すごく暖かいんですよ。たとえばモンゴルだと家の中もすごく暖かいんですよ。日本の家の中は寒くて、初めての冬を迎えた時は死ぬかと思いました。モンゴルでも外はすごく寒いんですけど、家のなかは暖かいんです。



写真2 京都は金閣寺にて

——留学するにあたって、何故日本を選んだのですか？

モンゴルの学校で小学2年生から日本語を習ってきました。お兄ちゃんもその学校で日本語を習っていたから、その影響もあると思うんですが、とにかく親が日本語を選んでくれたからです。それから卒業するまでの9年間勉強してきました。なので、日本語をもっと頑張ろうと上手くなるために日本の大学で経済を学ぶこと



写真3 ザヤーさんの一番下の妹さんの一歳の誕生日

——日本食は食べられますか？

でも日本食はあまり好きではないんです。モンゴルでは海のものはないですから。それと、納豆は食べたことがないんです。見るだけでも友達が納豆は絶対食べては駄目と言っていました。お寿司も食べたことないです。海魚が全然食べられないんです。日本で魚が食べられないと大変ですよ。

——では、逆にモンゴルのもので、これは是非日本に広めたいというものはありますか？

うーん、そうですね……自然ですね。街を少し離れると、とても広い草原があるんですよ。すごく気持ちがいいですよ。土日はいつも街を離れて一日中そういうところすごしたりしますね。空気もすごい綺麗です。東京はどこに行ってもビルばかりじゃないですか。息苦しいです。

——最後にお聞きします。将来どのようなことをしたいですか？

大学4年間一生懸命勉強して、モンゴルに帰って家族で経営している会社を続けていけるよう、役に立つ人間に成りたいと思っています。

にしたんです。

——日本にあるもので、これが好き、というものがあれば教えてください。

明石家さんまが大好きなんです。土曜日の夜の番組毎回観ています。音楽だと以前は宇多田ヒカルが大好きでCDは全部買いました。最近だとEXILEが好きですね。ちなみにモンゴルでも日本のCDを売っているのですが、日本語の勉強をしているとか日本に留学したことある人達しか興味を持ちませんね。

——海外では日本の漫画が人気だという話をよく聞きますが、ザヤーさんは日本の漫画を読みますか？

以前は少女漫画しか読まなかったのですが、友達に借りて読んだ『BLEACH』はすごく面白かったです。最近は『ONE PIECE』を読んでます。少女漫画だと『ラブコン』とか、あとは『のだめカンタービレ』が好きです。お姉さんは漫画が好きなので、お姉さんが買ってきたり、私が買ってきたり、最初に買ってきた人が貸したりしますね。

小説と比べて、漫画は絵も付いているのでわかりやすいです。登場人物も何回も描かれますから理解しやすいですよ。



写真5 冬のモンゴルの平原

インタビュー内容をお読みになっていただく

と解ると思うのですが、ザヤーさんは日本の学生となら変わり無い生活を送っています。買い物もするし、日本で人気の漫画も読むし、さんまさんの魅力も見抜いています。そう考えると、こうしてお話をする上では、国や文化の違いというのはそれほど壁にならないように思えます。勿論、ザヤーさんの場合、以前から日本に何度か訪れていた経緯がありますし、日本語

——モンゴルの漫画にはどのようなものがあるんですか？

二年位前に出た漫画でチングス・ハーンについて描かれた漫画があるんですが、結構面白いんですよ。でも、(国語辞典くらいの大きさを描きながら)こんなに大きいんですよ。ハードカバーの本みたいになっていてオールカラーなんです。でも、この大きさはちょっと違うなと思います。



写真4 去年の夏に妹さんとモンゴルのゴビに行った時の写真

も流暢なのでなおさら親近感を覚えやすいというのがあります。しかし、たとえそうした背景が無かったと考えると、ザヤーさんの物の見方はやはり今の日本の学生と比べてそれほどの違いは無いのではないのでしょうか。その上、ザヤーさんは会計や簿記の勉強を楽しんでやっているし、それを母国にいる家族のために役立てようという意志も持ち合わせています。むしろ同じ学生である私達から見れば、とても立派だと思います。

経済学科1年のザヤーさんはこれからの3年間できつと多くのことを学んでいくでしょう。それと同時に、そうした留学生と関わる中で、私達日本の学生自身も多くのことを学ぶ機会があると思います。この限られた4年間という時間を、有意義に過ごせたのなら、それは恐らく私達にとっても、ザヤーさんにとっても糧になっていく経験になることでしょう。そしていづれ母国の家族のために経済の知識を身につけて成長したザヤーさんは、やっぱりさんまさんの事が好きでしょう。

留学生紹介協力

神奈川大学外国語学部国際文化交流学科

助教授 高木南欧子